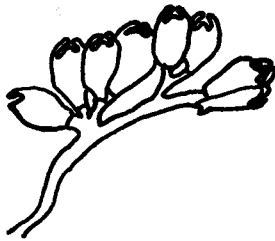


(表紙の写真)

### 活性汚泥中の原生動物繊毛虫類緑毛類 (*Epistylis*属)



*Epistylis*属は一つ一つの細胞が集合した群体を形成すること、水質浄化能が高く、かつ、活性汚泥などの固液分離が良好で上澄水の清澄は時に出現することを特徴としており、生物処理反応槽における浄化能の高いときに出現する指標生物として用いられています。

群体を形成しますので、これらが顕微鏡下では花が開いたようにきれいに見えます。良好な水質が得られている生物処理反応槽の中では活性汚泥混合液 1 mlあたり 1,000~7,000個体位出現する場合があります。

(環境庁国立公害研究所 主任研究員 稲森 悠平)

## 編 集 後 記

「岡山大学環境管理センター報」第9号をお届けします。

本号は、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)」の改正にあたって、化学物質の毒性についての特集を企画いたしました。私達の身のまわりにあるお馴染みのものでもその毒性は意外と知られていません。例えば、亀の甲の代表選手ベンゼンの容器には、日本のメーカーは「危険物火気厳禁」と表示していますが、外国のメーカーは「どくろ」マークまで大きく表示しています。化学物質などと肩肘張った呼び方の似合わないものの中にも、多数の伏兵が潜んでいます。当センターで取り扱う廃液の場合と同様に、「専門家」だけではなく、好むと好まざるとに拘わらず、誰もが向き合わなければならない問題があります。ゆっくりともう一度お部屋のなかを見廻してみたいかがでしょうか。

(教養部 築部 浩)

連絡先 環境管理センター  
センター報編集委員会  
(TEL 内線 449)